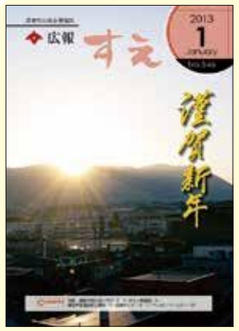
広報すえ発刊
700号記念

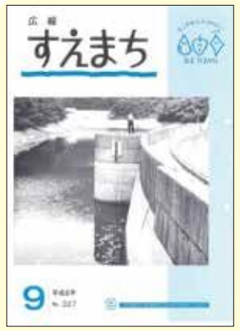
広報すえは、皆さんのおかげで700号を迎えました。
昭和34年に創刊し、今年で66年。
読者の皆さんへの感謝の気持ちを込めて、記念特集をお届けします。
そしてこれからも、広報すえは町のさまざまな情報を皆さんにお届けしていきます。

問 まちづくり課 広聴広報係　☎ 932-1153（ダイヤルイン）　☎ 932-1151（内線342）

歴代広報担当者に聞く！ 私の思い出の広報すえ



「1月号は初日の出やろ」
この表紙は、この安易な思い付きから生まれました。撮影日当日、装備を整え、いざ屋上へ！
徘徊しながら、一番高い場所に到達。冷静に周りを見ると、暗いし、寒い。闇に吸い込まれそう。高い所怖い。やっぱりここで。泣きそうになりながら撮った思い出の写真です。（智）
（平成22年度～平成25年度担当）



この表紙は須恵ダムの写真で、恐る恐る水面を覗いているのは若かりし頃の私です。平成6年の福岡県は、カラ梅雨で連日猛暑が続き給水制限が行われるなど深刻な水不足の年でした。
そこで本町の現状を知っていただくため、水位がどのくらい下がっているのかわかるようにと私が写った一枚です。（なお）
（平成6年度～平成7年度担当）

撮影した画像をその場で確認する時は「いい写真が撮れた！」と思うのですが、帰ってパソコンの画面で見ると、ぶれていたりピントが甘かったりで自分の技量の無さにガッカリすることが多々でした。そんな中、この写真はポーズもピントもバッチリだったので「よし！」と思った覚えがあります。この月の表紙は速攻で決まりました。（ま）
（平成27年度～平成29年度担当）

「おたんじょうびおめでとう」の担当で一歳を迎えた赤ちゃんの取材をしており、当時は、自宅に訪問してご家族に話を伺いながら赤ちゃんの写真を撮っていました。訪問時にお昼寝していたり、ぐずってしまったり、苦戦したこともありますが、赤ちゃんの笑顔に接すると幸せな気持ちになったのを思い出します。赤ちゃん口調で原稿を書くように先輩方に教わっていたので、気恥ずかしさもありながら書いていました。（びん）
（平成6年度～平成9年度担当）

連載「まちの史跡めぐり」執筆者へインタビュー

広報すえで昭和55年7月号より、連載「町史のひとこま」を全32回執筆、そして平成9年2月号からは、連載「まちの史跡めぐり」を執筆している石瀧 豊美 氏に連載と広報すえへの思いを伺いました。

「広報すえ」と歩んだ45年

広報すえは700号を迎え、隔月連載「まちの史跡めぐり」は222回を迎えました。第１回は平成9年2月号掲載の「600年前の繁栄語る一正中2年銘板碑（佐谷）」でした。当時は月に1回、1ページの連載で、後に奇数月2ページの連載へと変わりました。

その前にも、昭和55年７月号から昭和58年３月号まで連載「町史のひとこま」を32回、他に「史料あれこれ」、「地名の話」という記事を書いて掲載しています。

広報すえでの執筆開始は45年前のことです。昭和58年は町制施行30周年に当たり、その記念に『須恵町誌』が刊行されました。私はその編集・執筆担当で、現在のアザレアホール須恵の位置にあった旧役場の片隅でコツコツと仕事を進めながら、広報にも執筆することになりました。元々は理系で、歴史は素人でしたが、この仕事を通じて地域の歴史の掘り起こしのおもしろさを知りました。今も毎回テーマの選定に苦労しますが、須恵町の歴史の奥深さを痛感しています。これからも広報すえと共に歩み続けたいと思います。

私が選んだのは、小学校の運動会で元気いっぱいに踊っていた女の子の表紙です。楽しそうに踊る姿に目が惹きつけられ、カメラのシャッターを切りました。撮影した写真を見た時、女の子の楽しそうな笑顔とふわりと広がる髪の動きに躍動感を感じ、表紙に決めました。広報を担当した約３年間に撮影した写真の中でも渾身の１枚です。（佑）
（平成29年度～平成31年度担当）

初めて企画から行なった特集ページです。時系列でページを構成するため、天気が良い日を選んで何度も現地に足を運びました。関わられた皆さんの想いが少しでも伝わればと、汗だくになりながら写真を撮影したので、今でも近くを通るたびに思い出します。（花）
（令和４年度～令和５年度担当）

人口と振り返る記念号

1号
昭和34年7月発刊
当時の人口　15,437人
※昭和35年国勢調査時点

100号
昭和50年8月発刊
当時の人口　15,769人

200号
昭和59年1月発刊
当時の人口　19,699人

300号
平成4年6月発刊
当時の人口　23,013人

400号
平成12年11月発刊
当時の人口　25,270人

500号
平成21年3月発刊
当時の人口　25,787人

600号
平成29年7月発刊
当時の人口　27,834人